

問 久慈川水位低減対策の現状を伺う

答 久慈川550mで河道掘削を実施



公明党
おかざき さとる 議員
岡崎 悟

問 気候変動による風水害が激甚化し、頻発化する中で、災害の相が大きく変容している。昨年10月13日の早朝、台風19号の大雨により、久慈大橋橋脚のギリギリまで濁流が迫った。その勢いを見て、久慈川越水の可能性がゼロではないと感じた。久慈川の安全対策として、水位低減対策が必要では。現状と対策を伺う。

答 今年度、久慈川の洪水を安全に流下させるために、竹瓦橋上流側の石神外宿、竹瓦地区で250m、常磐線下流側の亀下地区で

300mの範囲で河道掘削を実施した。また、昨年の台風19号により甚大な被害が発生した久慈川水系では、久慈川減災対策協議会において「久慈川緊急治水



留大橋から望む亀下地区

対策プロジェクト」を取りまとめた。河道の流下能力の向上のため、河川のバランスなどを考慮し、河道内の土砂掘削や樹木伐採等による水位低減対策を、今年度から令和6年度までの5年間実施する予定である。

問 若い世代の転入を促す施策は

答 待機児童解消と保育施設の整備で

問 近年の人口推移から、特に若い世代の転入を促す効果的な施策が必要である。

答 村は病児・病後児保育施設の開設や保育士等緊急雇用対策などに加え、新公立保育所の運営、小規模保育施設の整備支援、ファミリー・

サポート・センターの設置などの支援を進める。さらに第2期総合戦略では、「横断的な枠組みづくり」や「SDGsの達成」「Society 5.0の実現」などの視点で、まちづくりを進める。

問 公明党は、保育の質と受け皿の整備を進めた上で、全ての0歳児から2歳児の無償化の拡大が、若い世代の転入を促す有効な対策の1つと考える。村長

の考えは。

答 必要性は十分理解しているが、0歳から2歳児の生活保護世帯や低所得者世帯、多子世帯の経済的負担軽減の取組を継続させながら、まずは保育の受け皿を整備して待機児童を解消する。その先の段階として、0歳児から2歳児の子どもを育てる子育て世代のさらなる経済的負担の軽減を考えたい。



開所を目指すけやきの杜保育所